

市政トピックス

東北6県の夏祭りが仙台に集結―東北絆まつり開催発表

1月26日、仙台緑彩館で東北6県の県庁所在地の市長などが共同記者会見を開き、「東北絆まつり2024仙台」を6月8日・9日に本市で開催することを発表しました。

東北の県庁所在地6市の6祭りが集結する東北絆まつりは、東日本大震災からの復興を願い開催された「東北六魂祭」の後継イベントとして、平成29年から本市を皮切りに6市持ち回りで開催。途中、コロナ禍での延期も余儀なくされましたが、昨年の青森市での開催



▲6市・6祭り団体・6商工会議所で構成される東北絆まつり実行委員会が共同記者会見を行い、思いを一つに、大きな掛け声で絆まつりの成功を誓いました

をもって東北を一巡しました。

実行委員会会長の郡市長は「東北の持続的発展のために、東北絆まつりを続け、活力ある東北地方の発展につなげていこうとの思いから、6市が改めて一つになり、2巡目を始めることとしました」と継続の意義を語りました。

祭りでは、西公園や青葉山公園などを会場に、東北各地のグルメブースの出店やステージイベントが行われるほか、2日目には、定禅寺通から東二番丁通りまでの区間で東北6祭りのパレードが行われます。東北絆まつりを通して、東北の伝統文化など多彩な魅力を国内外に広く発信していきます。

市政トピックス

大谷翔平選手寄贈のグローブが市内の小学校に届きました

米国のメジャーリーグで活躍する大谷翔平選手から、国内全小学校の子どもたちに野球グローブが寄贈されました。本市では1月24日、市立小学校および特別支援学校計119校に、ジュニア用グローブ右利き用2つ、左利き用1つ

ができるよう、災害時の対応を地域全体で確認する一日となりました。

市政トピックス

令和6年能登半島地震の被災地へ支援

市では、1月1日に発生した令和6年能登半島地震で甚大な被害を受けた地域に、職員の派遣等の支援を行っています。1月2日以降、石川県を中心に延べ228人(2月14日現在)を派遣し、被災者の支援や現地の復旧作業を行っています。

2月5日からは、新たに市教育委員会の教員を金沢市に派遣しました。2月5日に行われた出発式で、福田教育長は、「東日本大震災の経験から得た力を発揮してほしい」と職員を激励。職員は「不安を抱えながら生活をしている子どもたちのため、支える先生方や職員の方たちを全力でサポートしたい」と抱負を語りました。

派遣された職員は、2月5日から9日まで、2次避難中の中学生に対する学習指導の支援に、2月7日から11日まで、2次避難施設で生活する中学生の環境整備等の支援に当たりました。今後も、被災地に寄り添いながら積極的な支援に取り組んでいきます。

市政トピックス



▲火災防御訓練では、消防職員が一斉放水を行いました

市長コラム

春夏秋冬

仙台市長 郡 和子

粘り腰で被災地を支援

勾当台公園に威風堂々と立つ横綱・谷風梶之助の銅像。昭和46年に設置されてからずっと仙台を見守ってくれています。谷風は、現在の若林区霞目出身の力士で、大相撲史上屈指の強豪でした。郷土が生んだ大横綱ですので、皆さんよくご存じです。第4代横綱として相撲興行の隆盛に寄与し、今の相撲の礎を築いた江戸の大スターでした。63連勝という記録を打ち立て、約150年後に相撲の神様と言われた第35代横綱・双葉山に69連勝を達成されるまでは、最多連勝記録の保持者でもありました。歴代2位となった記録は、平成22年、第69代横綱・白鵬が並びタイ記録となりましたが、なかなかこれを超える記録は生まれません。

2月7日に「仙台市スポーツ賞」の表彰式が、仙台国際センターで行われました。これは、昨年1年間にアマチュアスポーツの分野で優秀な成績を収めた方や本市のスポーツ振興に貢献された方に贈られるものです。

栄光賞は46組が受賞。式では、第17回全日本テコンドー選手権大会および第17回全日本学生テコンドー選手権大会で優勝した岡崎陽向選手が、個人の部受賞者を代表してあいさつ。また、団体の部からは、第14回全国高等学校女子硬式野球ユース大会において東北勢初の優勝を成し遂げた、クラーク記念国際高等学校仙台キャンパス女子硬式野球部主将の内田梨絵選手が代表のあいさつをし、それぞれ受賞の喜びと今後の抱負を語りました。この他、優秀賞、奨励賞、功労賞を計52組に授与しました。



▲岡崎選手



▲内田選手



▲左から大塚さん、今さん、秋元さん。市内の野球チームに所属する大塚さんと秋元さんは「感謝の気持ちを忘れず野球を頑張りたい」と話しました

市政トピックス

アマチュアスポーツで活躍した個人・団体を表彰

ローブを触ったり、手にはめたりしながら感触を確かめていました。2月7日に「仙台市スポーツ賞」の表彰式が、仙台国際センターで行われました。これは、昨年1年間にアマチュアスポーツの分野で優秀な成績を収めた方や本市のスポーツ振興に貢献された方に贈られるものです。

ところで、45回の史上最多優勝を誇る横綱・白鵬、現宮城野親方は、東日本大震災発災の3月11日が26歳の誕生日だったことから、宿命だと被災地に想いを寄せてくださり、各地を回って土俵入りを披露したり、ちゃんこを振る舞ったりするなど、さまざまな支援活動に取り組ま

れました。慰問途中の平成23年6月には、大きな揺れにも微動だにしなければ、勾当台公園の谷風像の前に、7月場所での優勝を誓ったとお聞きしました。今年の元日に発生した能登半島地震では、今もなお不自由な生活を余儀なくされている方が大勢おられます。改めて犠牲になられた方のご冥福をお祈りするとともに被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げます。被災地石川県も優秀な力士を輩出する地域です。谷風に続く江戸の横綱で、千石船を一人で引いた逸話を残す第6代横綱・阿武松緑之助、そして昭和の第54代横綱・輪島大士など。発災後の初場所は、石川県出身で新入幕の大の里が、被災地の苦難を背負いながら白星を重ね、初の敢闘賞を受賞しました。故郷の復旧復興を思い、奮い立つ力士魂が被災地に多くの希望と勇気をもたらしました。これからの活躍も期待しています。仙台市としても、横綱の模範とされた谷風の力量と人格に倣い、「粘り腰」で被災地への支援を続けてまいります。

● 次回の掲載は6月号を予定しています